



憲法が一番の問題

憲法は改正すべきだが政府はこれから、「憲法改正」を議題に上げて、不十分だといわれている「国民投票法」を整備し、憲法改正の投票をやろうと、いうのだろうか。

憲法が一番の問題は9条の問題。

9条の1項は、日本からは戦争を仕掛けない。9条の2項は1項の「目的」を達成するために「日本は武力を放棄」、「武力を持たない」ということになっている。これが問題の根幹。

憲法9条の2項があるために、

- ◆日本の国は自分で護る必要はない。日本の防衛はみなアメリカに任せて「自分の国は自分で守らないでおこう」と



いう気楽なスタイルがすっかり国民に定着してしまった。

まあ、これは戦争が強すぎた日本人に対する連合軍アメリカの「日本人弱体化計画」「洗脳」の成果であり、GHQの目的だった。

GHQは日本人に対して War Guilt Information Program 「戦争についての罪悪感を日本人の心に植え付けるための宣伝計画」を徹底して行った。

- ◆日本の憲法学者、国会の野党議員はほとんどが「自分の国は自分で守る」という意識はない。

《アメリカさんが創った日本国憲法なのだから「恐れ多くも日本人が憲法を変えてはいけない」という》ののでしょうか。

日本の国民も、自分で血を流して戦わなくてよいのだから、よほど正義感が強く、犠牲的精神に富んだ人でなければ憲法改正をして「自国の防衛は自分たち日本人の手でやろう」という奇人な人はいない。そんなことを言えば「右翼」とのレッテルを貼られてしまう。

日本人の精神の根幹には聖徳太子の「和をもって尊しとなす」。また、正しいことには命を捨てても戦い護り抜く「武士道精神」がある。

つまり、日本人には社会的、個人的「規範」や「モラル」があった。

それが「自分で自分の身を護らない」となれば日本人は人間ですらない（獣であっても自らの命や群れのためには牙をむいて戦う）ではないか。

◆アメリカの「日本弱体化政策」は、日本との戦争が立案された段階から、周到に計画されていたようで、占領後は、その方針にそった「力」と「弾圧」によって、日本民族の「歴史」「道徳」「団結心」等を奪っていった。マインドコントロールに大成功を収めたのだ。

日本にも真剣に憲法改正を試みた人物がいた。ワイズ4月号に紹介した47代内閣総理大臣の芦田 均である。

芦田 均氏は衆院憲法改正特別委員長



芦田内閣

1948年3月10日～1948年10月15日

だった1946年7月29日に《憲法9条修正案》を出している。

9条の1項で「国際紛争を解決する手段」としての戦争や武力行使は永久に放棄する。つまり侵略行為はやらないが、日本は無条件に武力を捨てるのではなく、「自衛のためならば戦力の保持は可能」という修正がGHQに受け入れられている。

ところが、これが日本の日本たるゆえん、歴代政府はこの「芦田修正案」を理解せず、憲法9条の2項を「全面的な戦力不保持」と解釈しています。

だから未だに、自衛隊を「戦力」と言わず「自衛力」と不思議な言い換えをしているのです。

歴代政府がすでに成立している『芦田修正案』を無視し続けたことが、自衛隊の憲法上の存在をあいまいにしています。

日本政府は憲法の『芦田修正案』が成立しているのだから、今さら憲法を改正しなくとも解釈を変えて自衛隊を戦力と解釈すればそれでよいのではないか。